



2017年6月6日

昭和フロントが「第48回ストアフロントコンクール」 受賞作品を発表。

三和ホールディングス株式会社（本社：東京都新宿区／CEO：高山俊隆）の連結子会社である昭和フロント株式会社（本社：東京都千代田区／社長：長谷川伸二）は、「第48回ストアフロントコンクール」受賞作品を発表しましたのでお知らせします。

1970年から始まったストアフロントコンクールは今回で48回目を迎えました。業界で最も古い歴史があり、歴代の入賞作品は技術性、デザイン性に優れ、業界の注目を集める作品として高い評価を受けています。

今回は応募総数1,628件を数え、全国より優れた作品が数多く寄せられました。「店舗建築部門」「一般建築部門」では、デザインや建物全体との融合などを中心に、また「アイデア部門」ではアルミ型材の可能性を拓ける魅力ある作品かどうかをポイントに審査がおこなわれ、グランプリのほか部門ごとに賞が決定しました。

コンクール総評

審査委員長/八木 幸二氏

48回目を迎えるこのコンクールで受賞された皆さま、おめでとうございます。店舗建築部門、一般建築部門に力作が多く有ったことは言うまでもありませんが、アイデア部門にもユニークな発想と技術が登場してきたのはとても嬉しく思いました。

自然回帰とでも言うのでしょうか、緑の壁、木造のルーバーや床などが散見できたのは最近の流れでしょうが、今回もう一つ感じたのは表層の表現です。古いビルの表層をアルミ材で特徴付けたり、店舗のファサードに特徴的なパターンを連続させたり、あるいは平面的な模様を照明によって立体的に見せて印象的な夜景を演出したりしています。フロントやドアと表層の表現を組み合わせると新しい商品が生まれるかもしれません。

グランプリ受賞 「道の駅 常陸大宮～かわプラザ～」



（審査委員長コメント）国道 118 号線と久慈川に挟まれた畑に道の駅が出来て、物産店、レストラン、フードコート、加工室、調理実習室、農園、バーベキュー施設、公園などを含む複合的な施設が好評である。まず目につくのが、70m 余の緩いカーブを描く長い屋根で、そのファサードを特徴付けているのが黒のフロント材アソートと木製ルーバーである。FA120 ドアや HD180 ドアの入る天井にも木製ルーバーが広がり、この巨大な空間を厳しい寒さや暑さから守る影の主役がフロント材である。

反対側には、久慈川まで降りていける大階段があり、バーベキュー施設もあるので子供連れに大人気。観光客だけでなく地元の人にも愛されている施設の魅力に貢献しているフロントデザインは、グランプリに値すると評価した。

審査委員長/八木 幸二氏

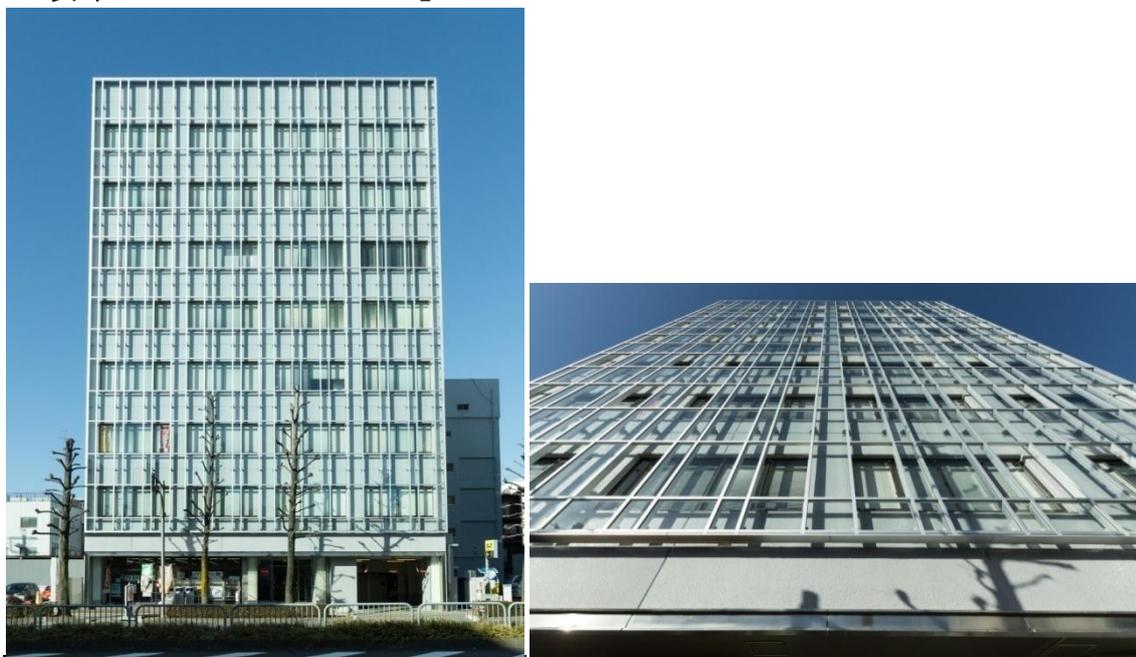
店舗建築部門 金賞受賞
「OGIYA 垂水店」



(審査委員コメント) 最近の傾向として、奇抜なデザインではなく、環境に溶け込みやすい、ソフトな感じの建物のデザインになって来ている。従来のパチンコ店のデザインではなく、立体的に見えるグラフィック処理をした壁面と緑を取り入れた入口周りが今までの機械的な雰囲気とは違う店のデザインを演出している。又、コストパフォーマンスを考慮したデザインで良くまとめていると感じる。

審査委員/牛建 務氏

一般建築部門 金賞受賞
「岐阜ステーションビル」



(審査委員コメント) 既存ビルのファサードがリニューアルされたものである。非常に個性的な表情を出しながらも、落ち着いた佇まいを見せている。既存の開口部のサッシラインとフロント材のグリッドの構成が計算されていて、美しいレイヤーが形成されている。

審査委員/橋本 夕紀夫氏

アイデア部門 優秀賞受賞 「小渋ダム土砂バイパス機側棟」



(審査委員コメント) アイデア部門作品を拝見し、その完成度が素晴らしく設計段階からの御苦労が写真からも伺えました。図面通りの加工精度があり、それを組み立て及び施工する技術も素晴らしく、フロント材を使用して「窓を作る」の概念を超えて製作されておりました。アルミ製品の新しい未来を切り開く一石を投じたのではないかと感じます。創意工夫を凝らせば既存品でも新商品に成りうる指標を示したとも言える作品なのではないでしょうか。今後、出品される作品から新商品が生まれる可能性を秘めており、製作に携わる方々の遣り甲斐を十分に感じられました。

審査委員/蛭間 秀信氏 (株式会社エース 取締役製造部長)